

平成 20 年度
いの町道奥名西線道路改良工事に伴う発掘調査

天神・溝田遺跡

記者発表及び現地説明会資料



日時 記者発表 平成 20 年 9 月 24 日 (水) 午前 11 時～12 時
現地説明会 平成 20 年 9 月 27 日 (土) 午前 10 時 30 分～11 時 30 分
場所 いの町天神の発掘調査現場

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

1. 調査の目的

今回の発掘調査は、いの町が計画をしている町道奥名西線道路改良工事に伴う発掘調査であり、事前の発掘調査を実施して遺跡の内容を記録し、地域の歴史復元に役立てようとするものです。

2. 調査対象地（調査面積）

いの町天神字城山他（1,400 m²予定）

3. 天神溝田遺跡の概要

天神溝田遺跡は、昭和34年に宇治川の改修工事によって、弥生時代の銅剣・銅戈（昭和41年のいの町指定有形文化財）が発見され周知の埋蔵文化財包蔵地になりました。平成19年度に行われた町道奥名西線道路改良工事に伴う試掘調査では古代・中世の遺構と遺物が新たに確認され、遺跡の範囲が広範囲に及ぶ事が明らかとなりました。

4. 調査体制

調査委託者 いの町

調査実施機関 財高知県文化財団埋蔵文化財センター

5. 調査協力

いの町教育委員会・いの町技術監理課・地元の方々

6. 調査期間

平成20年7月15日～10月15日（予定）

7. 調査結果

I区 ピット（柱穴）316個 溝3条 土坑15基（内、炉跡2基）

古代（奈良～平安時代）が中心（8世紀後半～12世紀）

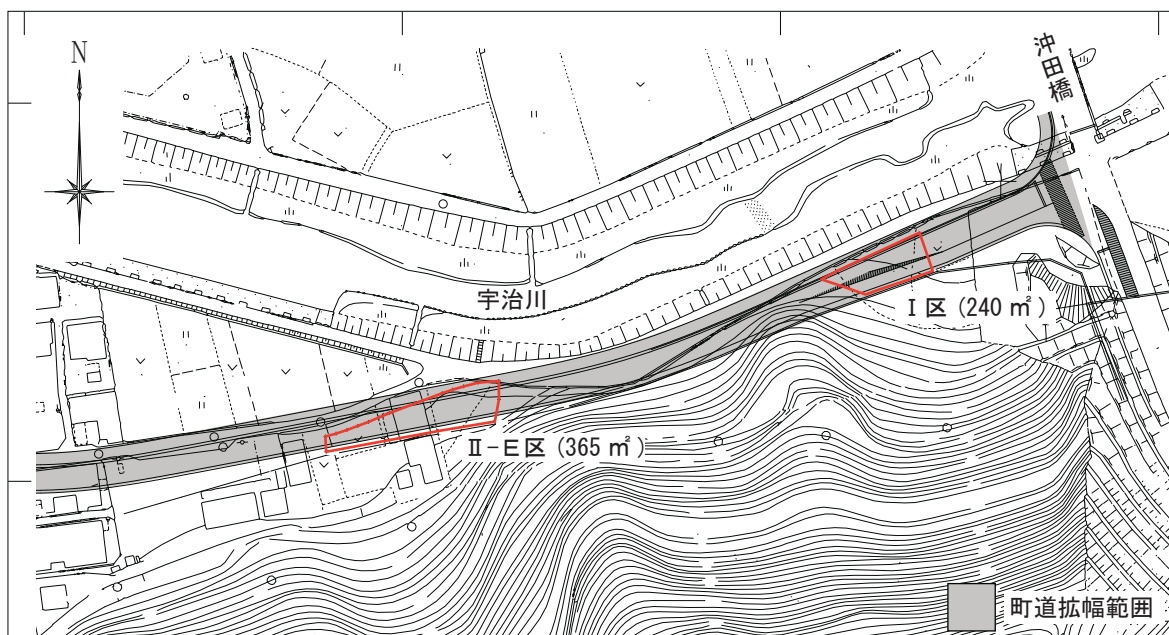
土師器・須恵器・緑釉陶器・黒色土器・鉄滓

II区 ピット（柱穴）95個 畝状遺構（畑の畝） 土坑7基（9月現在まで）

中世（南北朝～室町時代）が中心（14世紀～15世紀）近世も出土

土師質土器・瓦質土器・古瀬戸・常滑焼・東播系捏鉢・備前焼・鉄滓・砥石・

近世陶磁器



調査区位置図 (S:1/5000)



柱穴から出土した青磁



弥生時代の石包丁



SD3(溝)周辺の遺物出土状況



SD3(溝)から出土した須恵器

8. 調査成果

今回の調査では、調査対象地東端であるⅠ区で、奈良時代末～平安時代前期（8世紀末～9世紀）に位置付けられる遺物とともに、掘立柱建物跡・溝といった遺構も数多く確認され、土佐の古代史を解明する上で大変貴重な資料を得ることができました。当遺跡の立地するこの町中心部では、今まで律令期（奈良時代～平安時代）の様相を知る古代の遺構と遺物については出土例が少なく、「大野郷」「吾川郷」「朝倉郷」を含めたいの町郡郷の分布や配置について一石を投じる成果となりました。また、「吾川庄」（12世紀～13世紀）として荘園制への移行、変遷を考える上で貴重な資料を得ることが出来ました。加えて山から流れ込んだ堆積層（Ⅲ層）中から弥生時代中期の石包丁も1点確認されており、調査区背後の山上にバーガ森北斜面遺跡から続く弥生時代中期の高地性集落の拡がりが見込まれます。

Ⅱ区は現在調査中ですが、近世～現代にかけての畝状遺構とピット（柱穴）、南北朝期（14世紀代～）の瓦質土器（鍋・すり鉢）などの遺物とともに炉跡やピット（柱穴）が確認されています。また15世紀代の常滑焼（甕）が確認され、遺跡背後にある音竹城跡が機能していた時期を知る上で貴重な資料を得ることが出来ました。

今後、発掘調査を進めていくなかで、地域の歴史的解明に繋がる新たな発見が期待されます。



Ⅱ区調査風景



至高知市方面

北山前遺跡

大子寺遺跡

パーカ森北斜面遺跡

農道伊野南縁

奥名遺跡

宇治川

塔の向遺跡

町道中沢塔ノ向線

町道奥名廻線

昔竹城跡

国道33号線

高海老遺跡

仁淀病院

天神薄田遺跡

高知西ノ沢

天神遺跡

伊野中学校

いの警察署

いの町役場

至佐川方面

仁淀川

天神・薄田遺跡周辺の遺跡